

1 国際芸術家村におけるA I Rのコンセプト

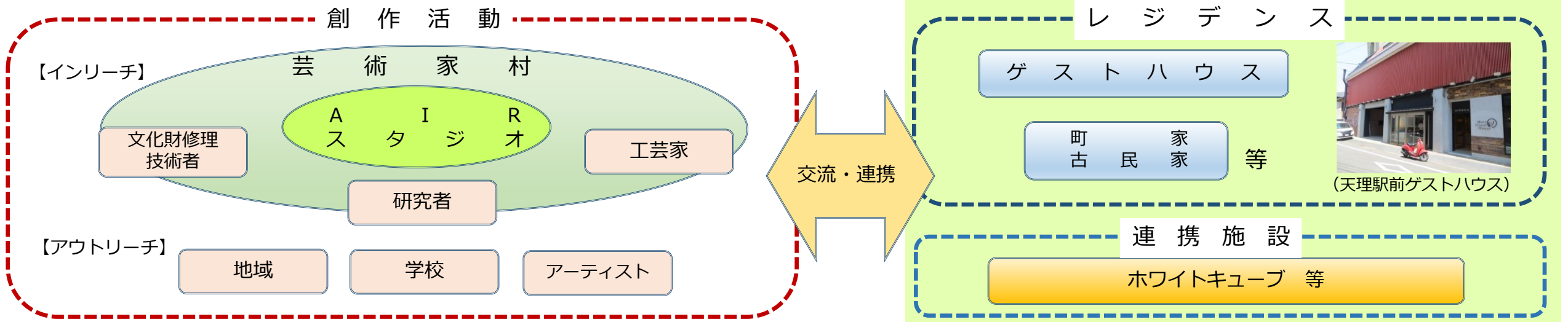
- ◆ 歴史文化と芸術文化の「交流」
- ◆ 異文化・異分野との「交流」
- ◆ 県民、市民、来訪者との「交流」

→  
コンセプトを基に  
実施すべきミッション

- 「奈良の歴史文化資源」を生かす創作活動  
奈良県の豊富な歴史文化資源や魅力を生かした創作活動の場を提供し、滞在・交流するアーティストの作品に影響を与える。
- 異文化・異分野との交流による「新たな奈良の芸術・文化」の創出  
異文化・異分野との交流の機会を持つことで、新たな奈良の芸術・文化の創出を図る。
- 県民等が芸術文化に直接触れる「参加・体験」機会の創出  
県民や来訪者が豊かな芸術文化に直接触れる「参加・体験」機会を創出することで芸術文化に関心を寄せる人々の裾野を広げ、県民意識の醸成を図るとともに、県民が日常に対して普段と異なる見え方をすることに気づき地域の魅力を再発見する。
- 未来の奈良の芸術・文化活動を担う子どもたちへアプローチ  
未来の奈良の芸術・文化活動を担う子どもたちへアプローチし、子どもをはじめ全ての人々の想像力や感性を磨くことに寄与する。

2 奈良県国際芸術家村における県・天理市の連携した取組

創作活動については主に芸術家村で実施。主なレジデンス機能は天理駅前のゲストハウス等を利用することで、日常的な地域との交流や賑わいの創出を促す。その他、展示施設として、天理市ホワイトキューブ等と交流・連携を図っていく。

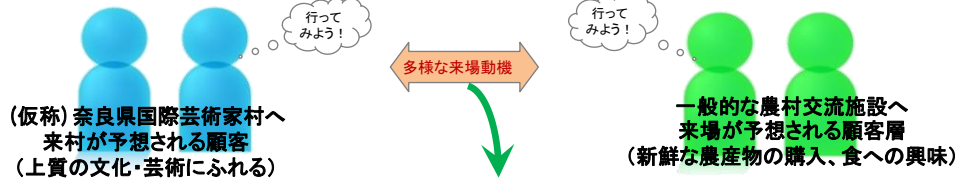


3 今後の検討項目

- コンセプトやミッションを達成するための実施プログラム・実施体制の具体化
- アーティスト募集条件の整理

# (5) (仮称) 奈良県国際芸術家村における農村交流施設・伝統工芸施設の展開について

## 農村交流施設の展開方向(案)



従来の農村交流施設にない領域を付加し、来村者に「食と農」の魅力を訴求

大人の「知的興味」や子どもの「好奇心」「探究心」を刺激する取組を展開

## ソフト事業のコンセプト(案)

実習室・魅力発信・交流等多目的スペースを中心として施設全体で奈良の食と農を実感できるソフト事業の展開を検討

大人も子どもも外国人観光客も 食べる・買う・学ぶ を通じて奈良に育まれた「食と農」の文化を味わう場所

## 農村交流施設で展開するソフト事業の検討状況(例)

### ◆魅力発信・交流等多目的スペース

- 農村文化教室 (伝統祭事のワークショップ)
- 奈良の食文化と郷土料理の魅力紹介
- 野菜や果物の食べ比べ教室
- 田んぼの水族館 (生き物の展示と講座)

### ◆実習室

- 旬の県産食材を活用した親子料理教室
- 新商品開発のための農産加工実習

### ◆農産物直売所・産直レストラン

- 食材や旬などテーマ別の食イベントの開催 (試食実演・メニュー紹介・料理フェア)



伝統祭事のワークショップ

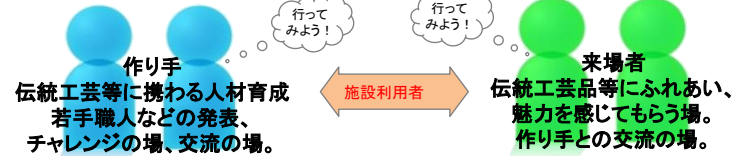


大和野菜の料理教室



県産野菜を食べようイベント

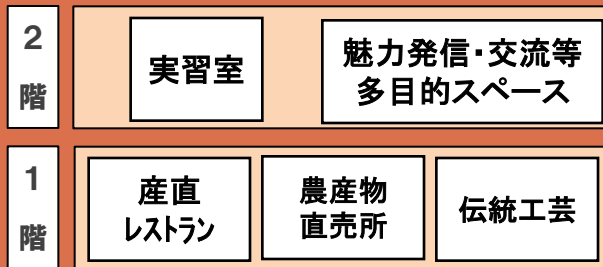
## 伝統工芸施設の展開方向(案)



作り手、使い手にとって、それぞれが刺激を受け、魅力のあるプラットフォームを目指す。

## ソフト事業のコンセプト(案)

## 農村交流施設・伝統工芸施設



職人等が、切磋琢磨するとともに、来場者に、伝統工芸等、奈良の地で培われた手仕事、人、地域の魅力に触れて頂く展開を検討。

奈良の伝統工芸等のブランド価値を創造

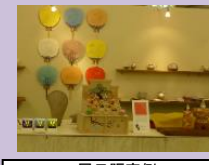
## 伝統工芸施設で展開するソフト事業の検討状況(例)

### ◆伝統工芸施設

- 定番である伝統的工芸品等の販売 (奈良筆、高山茶釜、一刀彫、赤膚焼等の展開)
- テーマ(「奈良のテーブルコーディネート」等)や、シーズン(「雛展」等)での展示販売
- 若手作家・職人の新作発表 (新たな感性による伝統と革新)
- 職人等によるワークショップ (仕事への共感を呼ぶような展開。奈良団扇、奈良墨等)



奈良団扇のワークショップ



展示販売例



期間限定工芸店舗実験





# (7) (仮称)奈良県国際芸術家村の名称について

- (仮称)奈良県国際芸術家村において指定管理者制度を導入するにあたり、その公募までに行政組織名を決定する必要がある。その前提として、2019年2月議会を目途に名称を含む施設設置条例を上程することが必要。
- 今後、行政組織名については、当検討委員会でのご意見等をいただいたうえで、十分検討を行い決定。また、当施設の活動内容などを広くPRする手段として、加えて広く県民に愛着を持っていただけるよう2019年度に愛称を募集。
- なお、行政組織名や愛称の検討にあたっては、外国語表記による「わかりやすさ」等の視点も考慮。

## <行政組織名の検討>



## <愛称の検討の考え方>

### (1) 愛称を決めることの効果

- ・愛着や親近感を高める。
- ・県民や多くの方にPRできる。
- ・オープン前の機運醸成。

### (2) 愛称を決定する方法

- ・施設の取組内容を広報周知した上で、公募。
- ・愛称から取組内容がイメージできる視点も考慮。
- ・公募の中から愛称を選定した上で、検討委員会に報告。

## <今後のスケジュール案>

事項	2018年度						2019年度						2020年度	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
名称検討	◆第9回委員会 行政組織名検討・決定						◆第10回委員会 ◆2月議会 施設設置条例上程(予定) → 愛称決定						オープン準備	
施設整備関係							施設整備工事						★サイン工事	



# 天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

## ● アーティスト・イン・レジデンス モデル事業 — “芸術文化に出会える街”を目指して—

(仮称)奈良県国際芸術家村のオープンを見据えた取組として、天理駅周辺と芸術家村とを結ぶ芸術文化エリアにおいて、主要動線としての芸術通りの構築や作品制作や展示などにより芸術文化に触れる機会の設定など、芸術文化を巡る回遊性を高める「芸術文化エリア構想」を進めます。

### アーティスト・イン・レジデンス(AIR)モデル事業について

アーティストが滞在し制作することで、市民とアーティストとの交流や、制作活動に触れる機会の創出など、地域の芸術文化の活性化を期待。芸術家村でのAIR事業に向けたモデル事業として天理市が実施し、事業方法の検証、芸術家や市民に対する認知度の向上、芸術家の集積を図る。

- ・ 招聘人数・・・2018年度：2名(招聘)、2019年度～2020年度：4名(公募予定)、2021年度以降：未定
- ・ 内 容・・・制作公開、ワークショップなど市民交流イベント、展覧会 (2018年度は、いずれもモリのゲストハウス及びホワイトキューブにて)
- ・ 実施期間・・・8月～11月

## ● アーティスト滞在拠点となるゲストハウス(民間)がオープン

## ● 展示・交流スペース(ホワイトキューブ)の整備 (10月下旬オープン予定)



本通り商店街空き店舗



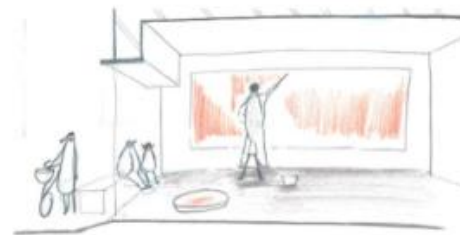
空き店舗



民間アートスペースへ (50～60㎡)

- ・ 作品制作の場
- ・ 作品展示の場
- ・ アーティストと地域や来訪者との交流の場 (展示解説、ワークショップなど)

※ホワイトキューブのイメージ



今後、山の辺の道沿いの古民家を活用するなど、アーティストの滞在および定住の拠点づくりを幅広く模索

● 参加アーティスト(招聘)が決定

ペ・ビョンウク (ByungWook BAE) 長期滞在50日間 9/16(日)~11/4(日)

1981年 韓国ソウル生まれ  
ソウル在住  
アーティスト/キュレーター

主な個展：2018年「コンセプチュアル大阪」大阪韓国文化院  
主なグループ展：2018年「ユハンスク個展」ロッテデパート  
(ソウル)

地方の再開発政策に焦点をあて、古い街の地域住民の記憶を可視化することや、アイデンティティの主張ができない人々の記憶を可視化することを制作の軸として、写真やインタビュー形式を通じた、インスタレーション作品、パフォーマンス作品、絵画作品の制作を行っている。また、人々が相互に話すことができるプログラムの企画運営も行う。

横山大介 短期滞在(通い型) 8/18(土)~11/4(日)

1982年兵庫県尼崎市生まれ  
大阪市在住  
2005年同志社大学文学部文化  
学科卒業(文学史科専攻)

主な個展：2018年「東川アーティスト・イン・レジデンス  
2018 成果展」東川町国際写真フェスティバル  
(北海道)  
主なグループ展：2018年「あなた/わたし」  
塩竈フォトフェスティバル2018(宮城)

自身の吃音をきっかけに、他者との関係性、主にコミュニケーションの手法の1つとしてポートレート写真を用いて考察している。



"I am artist\_ I am not artis 02"



"I am artist\_ I am not artis 03"



"Shadow Blossom 01"



"Shadow Blossom 02"



"Shadow Blossom 03"



《ひとりできない》 Type-C-Print



"I am artist\_ I am not artist OSAKA 01"



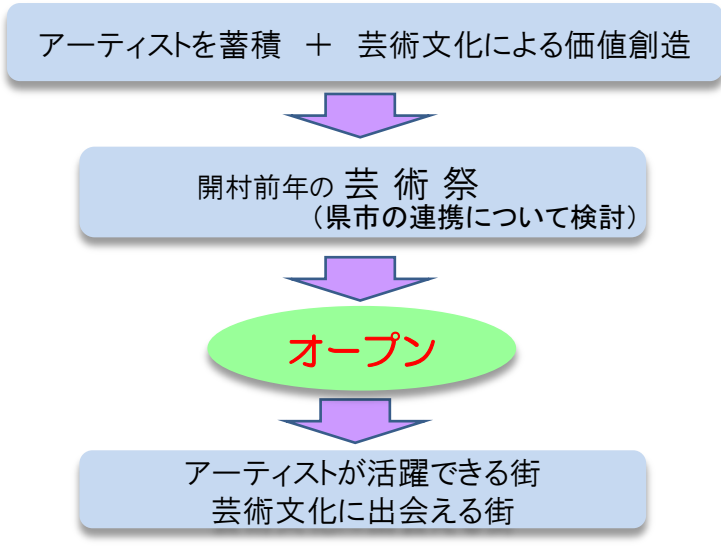
《TESHIMA 2012-2016》 Type-C-Print



# 天理市アーティスト・イン・レジデンス モデル事業の取組状況

## ● 今後の展開案

芸術家村は面白そう、芸術家村へ行きたいという期待感を、オープン前から、また、オープン後においても持続的に向上させる。



- 【芸術文化エリア構想事業】
- ・AIRモデル事業の実施
  - ・ワークショップ等の交流行事の実施
  - ・サイン整備、屋外展示の実施
  - ・エリアマップの作成
  - ・シェアサイクル、ノルディックポールなど周遊手段の整備
  - ・滞在の魅力をブラッシュアップ など



## ● 民間でも進む取組

### ○ 「雅楽エクスペリエンス」

インバウンド向けに、毎週木曜日夜に駅前広場コフンで、雅楽の実演鑑賞(英語による解説付)と衣装体験、楽器演奏体験ができる企画を民間ベースで商品化。



### ○ なら国際映画祭での映画撮影(フィルムコミッション)

地元との継続的な連携、協力体制により、河瀬直美監督の「光」クライマックスシーンの撮影、なら国際映画祭での受賞監督による映画撮影。



(C)2017 "RADIANCE" FILM PARTNERS / KINOSHITA, COMME DES CINEMAS, Kumie

(C)2018 "二階堂家物語" LDH JAPAN, Emperor Film Production Company Limited, Nara International Film Festival